

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
豊平学園 前期課程

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	1	1	1	1	1	6	2	8

(2) 兼務校の学級数

兼務校名	通常学級							特別支援学級	合計
芸北小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		
学級数	1	1	0.5	0.5	0.5	0.5	4	2	6

兼務校名	通常学級							特別支援学級	合計
本地小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		
学級数	1	1	1	1	1	1	6	2	8

兼務する場合の移動に要する時間(分/週当たり)	65 分
-------------------------	------

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	6	1	3	3	
理科	5	1	3	3	
体育	6	1	2.6	2.6	
体育	5	1	2.6	2.6	
理科	6	0.5	3	1.5	芸北小学校
理科	5	0.5	3	1.5	芸北小学校
理科	6	1	3	3	本地小学校
理科	5	1	3	3	本地小学校

授業時数 計 20.2 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 20.2 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	A 特別非常勤	A	D	推進	2年	A	A	推進	専科	A	A	A
芸北小 6年 1組 (担任: B)	B	B 特別非常勤	B	B	推進	B	B	B	B	専科	B	B	B
本地小 6年 1組 (担任: C)	C	C 特別非常勤	C	C	推進	C	専科	C	C	専科	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: D)	A	A 特別非常勤	D	D	推進	2年	D	D	推進	専科	D	D	D
芸北小 5年 1組 (担任: B)	B	B 特別非常勤	B	専科	推進	B	B	B	B	専科	B	B	B
本地小 5年 1組 (担任: E)	E	E 特別非常勤	E	E	推進	専科	専科	E	E	専科	E	E	E

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数


学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	20	A	5-1	国語	4	5	15	20
			5-1	書写	1			
5-1	18	D	6-1	算数	5	5	15	20
芸北小 6-1	14	B				0	25.5	25.5
本地小 6-1	9	C				0	22.6	22.6
本地小 5-1	10	E				0	21.2	21.2

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)


〈効果のあった取組〉

① ・一人一人の学びの場を保障する細かな教材準備を行った。



メダカの受精卵の観察 水溶液の性質調べ マット運動 技のポイント


・3校兼務を生かした教材準備の効率化や授業のブラッシュアップを行った。



毎時間の板書の記録  
一次の時間へ  
次の学校へ


デジタルワークシートで  
児童とも板書を共有  
3校で実験結果を共有

・ICTを効果的に活用した。  
(教科書会社のポータルサイトからダウンロードした単元ごとのSlide、MetaMoji ClassRoom、ふきだしくん、など)



MetaMojiClassRoom デジタルワークシート

④ ・兼務校を含む3校の5・6年理科と所属校の5・6年体育の授業を教科担任制推進教員が受け持つことで、学級担任の担当授業時数の軽減を図った。



〈課題〉

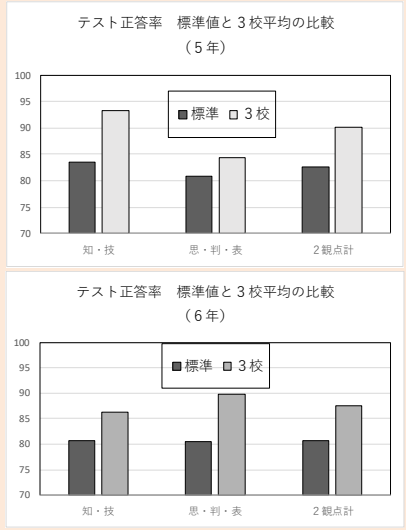
① ・指導者アンケートにおいて、5・6年理科の複式指導について、「安全面や学習内容の定着に心配がある」という指摘があった。担任の負担軽減が事業の趣旨の一つであるため、推進教員一人で複式指導を行っているが、安全を確保できない場合などは、学習活動を簡素化せざるを得ないこともある。

⑤ ・指導者アンケートにおいて、「時間割の変更が容易にできない。」「連携する時間があまりない」という声があった。また、行事等で推進教員の担当授業が変更になった場合、3校勤務のスケジュール内で時数を回復することが難しく、授業進捗が遅れたり時数が不足したりしてしまう。

〈成果〉

① ・児童アンケート「教科担任制で学ぶことで、勉強の内容がよくわかるようになりました。」に対する肯定的回答は、兼務校を含む3校で94.1%だった。また、「教科担任制になってよかったと思います。」に対する肯定的回答も95.6%と高かった。指導者アンケートでは「専門性が高まることで、学習指導の充実につながっている」に対する肯定的回答が100%だった。

・単元末テスト及び学期末テストの正答率平均は、兼務校含む3校で、標準正答率平均と比べ、5年生は+8ポイント、6年生は+5ポイントだった。CRTでは、全国比5年生105、6年生103と、全国平均を上回った。



テスト正答率 標準値と3校平均の比較 (5年)

項目	標準	3校
知・技	~80	~94
思・判・表	~80	~85
2観点計	~80	~90

テスト正答率 標準値と3校平均の比較 (6年)

項目	標準	3校
知・技	~80	~86
思・判・表	~80	~90
2観点計	~80	~87

④ ・学級担任の授業準備や成績処理にかかる時間が減少したり、教材研究や個人指導に向かう時間が充実したりしている。指導者用アンケートでは、「教材研究の深化や教材の工夫による授業改善につながっている。」に対する肯定的評価が100%だった他、「指導教科数の減少により、教材研究の時間の確保等、業務改善につながっている」は、単式学級担任の全員が肯定的に評価した。

〈対策〉

① ・中長期的な授業計画を立て、単元を組み替えたり複数単元を同時進行したりしながら、複式指導を可能にしておく。屋外での活動など物理的に不可能な場合は、監督できる職員を確保し、自習できるようにする。

⑤ ・2、3学期の授業日について、長期休業中に兼務校の先生と連携しながら予定を立て、変更になった場合の振替等についても検討することができた。中長期的なスケジュール管理と連携時間の確保や、ICTを活用するなど連携方法の工夫に取り組んでいくことが必要である。